広陵町教育委員会だより

令和６年度　９月号　　９月９日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町南郷583-1
TEL0745－55－1001　文責・編集　植村

をみなへし　佐紀沢に生ふる　花かつみ
かっても知らぬ　恋をするかも

巻4−675　中臣郎女

女郎花が咲くという佐紀沢（さきさわ）に生い茂る花かつみではないが、かって味わったこともない切ない恋をしています。

夏休みで学んだことを活かして！

９月に入り、少しは暑さが和らいでくれるかと期待しているのですが、如何せん、未だに最高気温が35度近い日々が続いています。熱中症から子どもたちの命を守るため、今年度より夏休み期間を一週間延長し、従来の９月１日から2学期の開始としました。今年は１日が日曜日だったため、2日（月）に町内の幼稚園、こども園（１号認定）、小中学校が始業式を迎えました。44日という長い夏休みを過ごした子どもたちも、この日は元気よく登園・登校しましたと園長先生や校長先生から伺いました。これからの2学期の学校園生活の中で、一人一人の子どもたちが夏休みの間、鍛えた心や体、そして知力を十分に発揮して、大きく成長してほしいと願っています。

ところで、今年の夏休みは、連日、熱中症警戒アラートが発表され、あまりにも暑い夏だったため、子どもたちは自宅にいる時間が多かったのではないでしょうか。そのような暑さの中でも、子どもたちは、自身や親御さんの計画に基づいて有意義な日々を過ごしてくれたと思います。特に日頃できなかった自身の趣味に没頭したり、家族旅行で初めて訪れた場所を満喫したり、あるいは、夏祭りや地域の行事に参加したり、自分の力で作品や工作を仕上げたりと、様々な経験や体験は一回りも二回りも大きく成長させたのではないかと思います。

また、この夏には、パリオリンピック・パラリンピックがあり、日本の選手だけでなく、世界の国から選りすぐられた選手たちが一途に記録や技に挑戦する姿に感動したり、今年100周年を迎えた甲子園球場において、連日、熱戦を繰り広げた夏の高校野球大会での高校球児の一挙手一投足に声援を送ったりと、一人一人がスポーツを通して懸命に打ち込むパーフォーマンスに勇気と感動をもらったのではないでしょうか。このような大きなスポーツ大会においては、試合に臨む姿勢やモチベーションのもち方、人と人のつながり等、教育活動を進めていく教職員をはじめ、子どもたちにおいても様々な示唆を与えてくれたことと思います。

この夏休み、子どもたちにとって、様々な体験を通してたくさん思い出ができたと思います。この一つ一つの体験や思い出が学びとなり、2学期からの学習や保育に健全な人間として成長するための貴重な糧になるものだと確信しています。

教育委員会の取組

教育講演会を開催しました！

８月23日(金)の午後2時15分から、山村町長をはじめ、教育委員・社会教育委員の皆さん、町内の小中学校、幼稚園・こども園の先生方、防災士の皆さんを対象にした教育講演会を広陵中央公民館かぐや姫ホールで開催しました。講演には、北葛城郡の各町の教育長や教育委員会の方々も来ていただきました。

今年の講演は、石巻市総務部震災伝承推進室主幹の高橋広子様を講師として、遠路はるばる石巻市から広陵町に無理を言って来ていただきました。

演題は、「**震災遺構と展示が伝えるもの**」と題して、高橋さん自身が荒れ狂う津波の中で一命を取り留めた経験と、津波と津波火災によって白壁が美しかった門脇小学校が一夜にして黒い校舎に変わってしまった、門脇小学校を震災遺構として後世に残そうと必死の想いで携わってこられた経緯から、「人間とは何か。自然とは何か。そして生きるとは何か。」という問いに対して深く見つめて来られた想いを話していただきました。

実は、私が昨年11月に、「東日本大震災の教訓を防災教育に活かす」ことを目的に、北葛城郡の教育長会の研修で石巻市を訪れ、震災遺構の門脇小学校の見学をさせていただき、その時に石巻市教育委員会のご配慮で、震災で甚大な被害を受けた門脇小学校の遺構の展示やレイアウトに携われた高橋さんに同行していただき、詳細な説明を受けたことがきっかけでした。髙橋さんは、震災が起こった2011年の3月11日に海岸から100mほどにあった市の文化センターに勤務されていたときに、大津波に遭われ、近くの警察署の3階に避難するも海水に自身が浸かりながら一命を取り留めた経験をお持ちで、自身が経験したことを後世に伝え、残していきたいという熱い想いで震災遺構門脇小学校の展示やレイアウトなど、すべてに関わってこられました。また、同時に児童・教職員84人が犠牲となった大川小学校の遺構展示にも関わってこられました。

現地での高橋さんの説明

そのような高橋さんを講師に招いて、「命の尊さについて」、「平和の日常について」を改めて考え、確かめ合う機会として開催しました。

講演の冒頭に高橋さんから「**私たちが生きるために必要なものは何ですか。**」「**あなたが今大切に思うものは何ですか。**」という問いを参加者に問われました。「人それぞれ様々な想いがあると思いますが、まずは考えておいてください。」と話されました。

そのあと、地震が起こる前の当たり前の日常が、地震

裏面へ

によって一変したこと。特に高橋さん自身が津波に遭遇し、待避が数秒遅れていたらおそらくは生きていなかったこと。偶然が重なり助かったこと。そして、同時に近しい人を両手の指ほど失ったことなど今でも思い出すと苦しくて涙が溢れてしまうとその当時の想いをかみしめるように切なく語っていただきました。

また、一瞬にして津波が家屋や自動車などを飲み込んで襲ってくる映像とともに津波によって火災が起こり、その燃えた家屋が門脇小学校に押し流されて火災が起こった「津波火災」の意味も教えていただきました。

津波火災によって焼きただれた廊下

その後、高橋さんの辛い苦しい思い出と向き合うことの葛藤と後世の人々に震災遺構を残していくための使命感についても語っていただきました。さらには、自らの命、他の人の命、そして生きるものすべての命を守っていくことの大切さを想像し考えてほしいと力説されていました。

高橋さんは遺構展示の中で数多くの詩を書かれていましたが、講演の最後にその一つを紹介されました。その詩を下記に示します。

明日（未来）へ

空が世界を一つにつなぐように
人と人とのつながりは国境を越え無限に広がることを知りました
たくさんの人が東北の地を訪れ
石巻に想いを寄せ続けてくれています
日本のそして世界中の人へ感謝の気持ちを伝えさせてください
寄り添い　ともに涙し　ともに笑いあい
ともに生きてくれて　ありがとう
どうか　ここが　みなさんの明日へとつながる
きっかけとなりますように

講演が終わった後、会場におられた3人の先生方から、講演の感想を交えて自分の今の想いを伝えていただきました。高橋さんは、それぞれの感想に対し丁寧に答えていただきましたがその想いを聴く中で、私の心の中は、感動とともに高橋さんを講師にお呼びして本当に良かったと満足感でいっぱいでした。それと同時に震災遺構門脇小学校を訪れ見学したあとに感じた想いがよみがえってきました。その私の感想を報告書として書いたものの一部を下に記します。

見学を終えて、真っ先に脳裏に浮かんだのは、未曾有の被害を出した東日本大震災の記憶を風化させず、このような遺構とともに未来を生きる子どもたちに語り伝え、残していくことが私たちの使命であるということであった。

校舎より復興祈念公園を望む

また、高橋さんと別れる間際に遺構の見学で感じたことを話すとともに、東日本大震災の被災当時や避難所等での中学生が人々を助け、支援する力はすばらしかったし、そのような年代だからこそ、人々にとって自然の恩恵を受けることとその逆の自然の猛威に屈することも人間社会の道理であると理解する力がある。それだけに、中学生としてこの遺構を見聞きし、高橋さんを含め、被災されたすべての人々の話を聴くために、修学旅行等でこの地を訪れてほしいと。小学校の修学旅行は現状、広島での平和学習をしているが、それは教育的意義あることであり、戦争は人対人によって起こされるものである。しかし、地震や水害などは自然が引き起こし、人対自然という構図で、自然から受ける恩恵も数多くある代わりにしっぺ返しとして自然の脅威に屈するときもある。そのことは、中学生ぐらいになると理解できるのではないか。という話をさせていただき、ぜひ、この地に我が町の中学生を連れてきたいという熱い想いを話して震災遺構の門脇小学校をあとにした。

講演を終えて、参加された先生方等の感想には「震災を体験され、しかも一命を取り留められた方の言葉の重みと『自然災害はどんな人にも等しくやってくる』という言葉に考えさせられた」や「教育現場で勤める私たちは守るべき命がたくさんある。備えは常にもち、子どもたちへ共有していかなければならない」、「震災からの学びとして必ず門脇小学校を訪れたい」など記憶を紡いで未来のいのちにつなぐことの大切さが書かれていました。

コミュニティ・スクール研修会を実施!

今年度も、地域と学校の連携・協働活動のための広陵町コミュニティ・スクール研修会を8月29日(木)に実施しました。各学校において、学校運営協議会の中心となる地域コーディネーターや学校関係者の資質向上を図るとともに、意見交流の場としての研修でした。

今回は、奈良県CSアドバイザーの西　孝一郎先生をお招きし、「**コミュニティ・スクールの導入から運営まで　～子どものために　みんなで　つなぐ　地域とともにある学校～**」という演題でご講演をしていただきました。

はじめに、コミュニティ・スクールの目的を話され、3つのキーワード「こどものために」「みんなで」「つなぐ」を大切に、「地域とともにある学校」を実現すること、そして、『こどものために　みんなで　つなぐ　地域とともにある学校』がコミュニティ・スクールで**コミット**する（積極的にかかわる、深くかかわる、責任もって取り組む）ことが地域と学校を良くすることにつながると力説されていました。

次に、学校「支援」ボランティアで「コミットする」地域学校「協働」活動について話され、算数の九九や裁縫・ミシンなどの学習支援、児童の登下校の見守りや学校園・運動場などの環境整備・安全、習字や音楽・美術・総合的な学習での講師としての専門的教育支援、クラブ活動の支援や学校行事における支援としての文化・スポーツ行事の支援を通して、協働活動を進めることの大切さを示唆していただきました。

その後、8つのグループに分かれての熟議を体験していただきました。それぞれのグループは「**あいさつの響く学校・地域にするために**」「**思いやりのある子どもを育てるために**」「**地域を大切にする子どもを育てるために**」のテーマで熱心に熟議が行われました。研修会に参加された方々からは、「学校を核として地域の方々をつないでいくことの大切さを改めて考えさせられた。」や「熟議で地域の方と話せたことがとても良かった。」など、とても前向きな感想をいただき、充実した研修会となりました。